

平成30年 1月 5日
東北地方整備局

入札監視委員会の審議概要について (第二部会第3回定例会議)

東北地方整備局入札監視委員会の平成29年度第二部会第3回定例会議が、平成29年12月15日(金)に仙台市の東北地方整備局で開催されましたので、その審議概要(別紙)についてお知らせします。

なお、第二部会第3回定例会議では、委員会が抽出した案件6件の審議が行われ、意見の具申又は勧告事項はありませんでした。

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問い合わせ先

(第二部会) 仙台市青葉区本町3丁目3番1号	TEL (022) 716-0013(ダイヤル)
契約管理官	なかしま 中嶋 勝正 (内線6221)
経理調達課課長補佐	やまだ 山田 耕平 (内線6554)

東北地方整備局 入札監視委員会（第二部会）審議概要

開催日及び場所	平成29年12月15日（金） 東北地方整備局 会議室		
委員	<p>部会長 高橋 敏彦 【(学) 東北工業大学 工学部 教授】</p> <p>部会長代理 是川 晴彦 【(国) 山形大学 人文社会科学部 教授】</p> <p>委員 我妻 崇 【弁護士】</p>		
審議対象期間	平成29年 7月 1日 ～ 平成29年 9月30日 (上記期間に契約締結した案件を審議)		
審議案件	総件数 6件 (別紙ー1 審議案件一覧のとおり)		
工 事	一般競争入札（政府調達に関する協定適用対象）	1件	<p>(備考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議に先立ち、 (1) 工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況 (2) 指名停止等の運用状況 (3) 談合情報等の対応状況 (4) 再度入札における一位不動状況 (5) 低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 <p>について報告が行われました。</p>
	一般競争入札（政府調達に関する協定適用対象以外）	2件	
	工事希望型競争入札	0件	
	指名競争入札	0件	
	随意契約	0件	
	建設コンサルタント業務等	2件	
役務の提供等及び物品の製造等	1件		
委員からの意見・質問、それに対する説明・回答	別紙ー2のとおり		
委員会による意見の具申又は勧告の内容	本日の審議案件について、意見の具申又は勧告事項はありません。		

【工事】

入札方式	工 事 名	工事種別	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位：千円)	落札率 (単位：%)	担当事務所
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事）	むつ小川原港外港地区防波堤（東）（災害復旧）改良外工事	港湾土木工事	3者	3者	H29.7.26	西松建設（株）	559,440	98.87	八戸港湾・空港整備

入札方式	工 事 名	工事種別	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位：千円)	落札率 (単位：%)	担当事務所
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの）	秋田港外港地区防波堤（第二南）本体工事	港湾土木工事	6者	5者	H29.7.21	あおみ建設（株）	513,756	90.19	秋田港湾
一般競争入札方式（政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの）	小名浜港東港地区臨港道路航路部棧台撤去外工事	港湾土木工事	1者	1者	H29.7.27	東亜建設工業（株）	270,000	98.45	小名浜港湾

【建設コンサルタント業務等】

入札方式	業 務 名	業務区分	手続きへの参加資格及び業務実施上の条件を満たす参加表明書の提出者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位：千円)	落札率 (単位：%)	担当事務所
簡易公募型競争入札方式	酒田港現況調査	測量・調査	4者	4者	H29.7.20	三洋テクノマリン（株）	7,506	89.24	酒田港湾
簡易公募型プロポーザル方式	仙台塩釜港仙台区向洋地区越波対策検討業務	建設コンサルタント等	6者	5者	H29.8.30	（一財）沿岸技術研究センター・（株）日本港湾コンサルタント設計共同体	21,924	99.97	塩釜港湾・空港整備

【役務の提供等及び物品の製造等】

入札方式	業 務 名	業務分類	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位：千円)	落札率 (単位：%)	担当事務所
一般競争入札方式	八戸港りゅうじん修理	物品の製造又は役務の提供等	3者	3者	H29.9.11	八戸港造船（株）	7,884	99.37	仙台港湾空港技術調査

1. 報告	
意見・質問	回 答
意見・質問なし	

2. 審議	
意見・質問	回 答
1 むつ小川原港外港地区防波堤(東)(災害復旧)改良外工事	
<ul style="list-style-type: none"> ・初回の入札で全者が予定価格を超過しているが、どのような理由によるものと考えているか。 ・落札者が再度入札で入札価格を下げる事ができた理由をどのように判断しているか。 ・初回の入札で最も高い入札をした者が、再度の入札で落札できたのは、汚泥処理費用を見直した結果ということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再度の入札を前に各者に聞き取りを行ったところ、本工事で発生する汚泥は運搬時に固化が進行するため汚泥処理単価を高めに設定したこと、また、汚泥を急いで処理するため施工と運搬の2班体制が必要と判断したこととの回答を得ており、この内容が予定価格を超過した主な理由であると考えています。 ・初回の入札で全者が予定価格を超過したことから、再度の入札に向けて、汚泥処理に関する条件が特記仕様書に示している条件と異なる場合は変更契約の対象となる旨を改めて説明しています。これにより汚泥処理に関する経費を見直した結果、初回の入札価格より安価な入札価格になったものと判断しています。 ・落札者は、年度当初に公表する発注見通しにおいて本工事がWTO対象工事予定となっていたことから、WTO対象工事の基準額7億4千万円を基に低入札調査基準額を下回らない範囲で初回の入札をしたとのこと。再度の入札にあたっては、汚泥処理費用を含め必要経費を精査したことにより落札に至ったものと考えています。
2 秋田港外港地区防波堤(第二南)本体工事	
<ul style="list-style-type: none"> ・入札価格が調査基準価格付近に集中しているが、どのような理由によるものと考えているか。 ・総合評価の加算点はどのような項目で差がついているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本体工事は、施工手順がほぼ決まっていることから安定した施工管理が見込めること、かつ今回の工事は例年より発注規模が比較的大きいこともあり、入札参加者の受注意欲が現れた結果ではないかと推察しています。 ・本工事の場合は、企業の技術力や配置予定技術者の施工経験等の評価項目で加算点に差が生じています。

3 小名浜港東港地区臨港道路航路部棧台撤去外工事	
<ul style="list-style-type: none"> ・入札参加者が1者となっているが、どのような理由によるものと考えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札説明書等は11者がダウンロードしていることから、複数の者が工事内容を確認している状況であると思われます。しかしながら入札参加者が1者に止まった理由としては、発注規模が比較的小さいことに加えて工種が多岐にわたり手数を要する工事であることが敬遠された要因ではないかと推察しています。
4 酒田港現況調査	
<ul style="list-style-type: none"> ・入札価格の差が大きいように思うが、この原因はどのように考えているか。 ・技術評価点はどのような項目で差がついているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の調査では、UAVやマルチビーム音響測深機を用いた業務が含まれていることから、使用する測量機器の経費算定部分で差が生じたのではないかと推察しています。 ・本業務では、配置予定管理技術者が過去に担当した業務成績と保有する資格の評価項目で技術評価点に差が生じています。
5 仙台塩釜港仙台港区分洋地区越波対策検討業務	
<ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザル方式の場合、参加者は業務の価格がどのくらいになるかを把握しているのか。 ・技術提案の評価点はどのように決定しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易公募型プロポーザル方式の場合、業務説明書において概算の予算額を明示しますので、ある程度の予算規模は把握できますが、最終的には特定された技術提案により特記仕様書の見直しを行い、改めて算定した価格が予定価格となります。 ・評価担当の職員3名が、技術提案書について配置予定管理技術者からヒアリングを行って評価しています。3名の評価の平均値が技術提案の評価点となります。
6 八戸港りゅうじん修理	
<ul style="list-style-type: none"> ・再度の入札では2者が辞退しているが、その理由をどのように考えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞退した2者は電子入札システムではなく紙入札方式による入札参加者です。再度の入札に移行した場合、紙入札方式による入札参加者は開札に立ち会わなければ入札は辞退したものとして取り扱う旨を入札説明書に明記しており、この2者はこの要件に該当したことから辞退扱いとなったものです。